

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人厚生福祉会
施設名	青戸ひだまり保育園
報告者（役職）	夏堀 真須美（保育士）
住所・連絡先	東京都葛飾区青戸 3-10-5
	☎ 03-6231-2561
	E-mail a-hidamari@sage.ocn.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

「やってみたい！」を見つけよう

### ○主な助成備品

ロッキングボール、バランスストーン、メッシュトンネル、ボール、やわらかブロック、ピタゴラス、プール、ミニ滑り台、ミニハウス 等

## 1. 保育計画策定の目的

開所まもない小規模保育施設である当園は、ブロックやおままごとなど限られたおもちゃばかりで大きな玩具は無く、子どもたちが園に慣れるにしたがって満足して遊ぶことが難しくなってきました。戸外に出れば同じ建物にある児童館のグラウンドや姉妹園の広い園庭、公園など、子どもたちの好奇心や挑戦心をくすぐる物事がいろいろあるのですが、園内では出来ることも限られ、子どもたちが選べる遊びの幅も狭くなっていきました。雨の日や寒い日など外遊びが出来ない時にも室内のあそびの充実を図り、また狭い園庭でも遊べるものを購入させていただきました。

## 2. 具体的な実施内容

ロッキングボールは大きな中華鍋のような形をしているので、足を入れるだけでゆらゆらと揺れ、初めは片足を入れて動けなくなり、大人の手を借りて子どもたちは入っていました。しかし一人で乗り込めるようになるとすぐにその魅力に気づき、子どもたちが2～3人で競うように入ってしまう、重みでロッキングボールが動かなくなってしまうこともありました。遊ぶ機会を重ねるうち、2歳児は二人で乗り込み、息を合わせて揺らせるようになりました。

メッシュトンネルは、一人用の短いトンネルです。購入当初は一人一つずつ使い、主に横から出入りして中で寝転がり、大人に揺らしてもらったり、網目から外を覗いたりしていました。子どもたちのちょっとしたパーソナルスペースの役割もはたしていたように思います。縦にして遊ぶことを見つけると、歩けるようになった0歳児が一人でトンネルの出入りにチャレンジしたり、大きい子はトンネルのふちを掴んで飛び跳ね、それに合わせてスプリングが跳ねることを楽しんだりするようになりました。

バランスストーンは、一つひとつのストーンの上り下りから、並べてでこぼこ道を作ったり、間隔を広げてより難しい道を作って歩くようになりました。一番大きなストーンはひっくり返すと子どものお尻がすっぽりと入って、ちょっとしたロッキングチェアになったりしています。

ピタゴラスは、カラフルな色合いと三角や四角のパーツが磁石で簡単にくっつくのが小さい子にも遊びやすく、購入当初から人気のおもちゃです。子どもが出し入れしやすいところがあるので、使わない日はないほどです。手に取ったものを順に並べて広げていく遊び方から、同じ形、同じ色だけを選ぶようになり、壁のホワイトボードに並べてみたりするようになりました。立体的な物が作れるようになると自分より背の高いタワーを作ることが流行し、心の中ではきっとドキドキしながら、でも黙々とピタゴラスを一枚一枚積んでいく子どもたちの様子が見られました。

コンビカーや三輪車に乗ることが主だった園庭はミニハウスの登場によっておままと道具が活き、おうちごっこが出来るようになりました。ミニ滑り台は夏、プールと組み合わせでウォータースライダーになり、狭い園庭がダイナミックに遊べる場となりました。

### 3. その成果と評価

子どもたちはこれらのおもちゃで遊び込むにつれて様々な遊び方を自ら発見するようになり、ごっこ遊びも豊かになっていきました。

ロッキングボールをひっくり返してカメの気分を味わったり、メッシュトンネルを縦に並べて保管時に使うマジックテープで連結して電車ごっこをするようになりました。今ピタゴラスはごっこ遊びに必要なおもちゃになっています。長い二等辺三角形をぐるりとつなげてピザに見立てたり、正三角形と二等辺三角形を組み合わせでアイスにしてお店屋さんごっこをしたり、正方形で作った箱はおばけのおうちになったりしています。園庭のミニハウスは、カウンターを活かしてコンビカーや三輪車でドライブ途中で立ち寄れるレストランやお土産屋さんになり、子どもたちのイメージがどんどん膨らんでいるのが分かります。

これらの遊びはまず2歳児が遊び込み、徐々に1歳児、0歳児へと広がっていくことが多いのですが、1歳児のちょっとした思い付きを大人や2歳児が目止め、さらなる遊び

へ発展していくこともあります。また年齢の違う子たちが同じ場所で遊ぶことによって大きい子が小さい子に譲ってあげたり、手を貸したり、遊び方を教えたり姿も見られる様になりました。室内でも十分に遊び込めるようになったおかげで、このような良い循環が生まれたのではないかと思います。



連結してトンネル電車



2人で入ると楽しさも倍だね！



アイスをどうぞ



ウォータースライダー！



今日は何を作ろうかな

#### 4. 今後の課題と展望

当園は児童館の一部にあり、限られたスペースしかありません。しかし戸を開け放てば全体が見渡せ、ぐるりと回れる作りになっています。小さな園だからこそ大人と子ども、子ども同士の関係が近くなるのかもしれませんが。今回新たにおもちゃを購入し、遊び込める環境を作ることで、大きい子が小さい子を気遣ったり、小さい子が自然と大きい子を真似て挑戦する異年齢保育の良さが発揮されることが分かりました。今後も安全に配慮しつつ、おもちゃの組み合わせや遊び方などの子どもの新しい発見を後押ししながら、子どもが満足できるような遊びを展開していきたいと考えています。

以上